

各機関からの取組状況 報告



目次

武雄河川事務所	1
多久市	16
武雄市	18
小城市	21
大町町	26
江北町	28
白石町	31
-1 佐賀県 危機管理防災課	34
-2 佐賀県 河川砂防課	39

武雄河川事務所

六角川水系緊急治水対策プロジェクト

① 武雄河川事務所

～ 国、県、市町等が連携し、逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化を目指す ～

○令和元年8月豪雨において甚大な被害が発生した、六角川水系における今後の治水対策を関係機関が連携し、「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町等が連携し、以下の3つの取り組みを実施していくことで、概ね5年間で「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けた更なる取り組みの推進【まちづくり、ソフト施策】

①被害の軽減に向けた治水対策の推進

【河川における対策】約418億円

- 六角川水系牛津川では、これまでの観測史上最高水位を更新する大きな洪水が発生し、堤防からの越水が複数発生するなど、治水施設の限界を超えるような事象が発生

被害の軽減に向けた治水対策を加速化し推進を図る。



佐賀県多久市内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 被災施設等の迅速な復旧
- 河川水位を低下させるための取組
 - ・遊水地等の洪水調整施設の整備
 - ・洪水が円滑に流れやすい河道整備の推進
- 施設規模を上回る洪水に対する取組
 - ・危機管理型ハード対策
- 既存施設を活用した洪水被害軽減対策
 - ・堰、排水機場等の遠隔操作化、樋管等の無動力化
- 河道・管理施設等の適切な維持管理

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進

【流域における対策】

- 有明海に注ぐ、六角川水系は大きな干満差と低平地の佐賀平野の地形特性により、これまでも度々支川の氾濫被害を被ってきた。
国、県、市町等が連携して浸水被害の軽減対策について検討し、取組を進める。



佐賀県小城市内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 支川の流出抑制・氾濫抑制の取組
 - ・ため池等既存施設の有効活用
 - ・クリークを活用した雨水貯留容量の確保
 - ・雨水貯留施設、透水性舗装の整備等
- 既存排水機場の耐水化の取組
 - ・排水機場の耐水化の推進
- 浸水被害を軽減する取組
 - ・排水機場等の整備
- ”逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備

③減災に向けた更なる取り組みの推進

【まちづくり、ソフト施策】

- 堤防からの越水や支川の氾濫などによる様々な浸水形態により、各住民が適切な避難準備、避難行動等を的確に取ることが困難であった。
住まい方の工夫と、きめ細やかな情報提供等を国、県、市町等が連携し実施することにより、「減災」の取組を推進する。



佐賀県大町町内における浸水被害状況

<主な取組メニュー>

- 住まい方の工夫に関する取組
 - ・「まちづくり」による水害に強い地域への誘導
 - ・住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの推進
- 災害の危険度が伝わるきめ細やかな情報発信の取組
- 防災教育や防災知識の普及に関する取組
- 要配慮者利用施設の避難に関する取組の推進
- 大規模災害時における迅速な復旧支援の取組

六角川水系緊急治水対策プロジェクト（位置図）

① 武雄河川事務所

【主なまちづくり、ソフト施策】

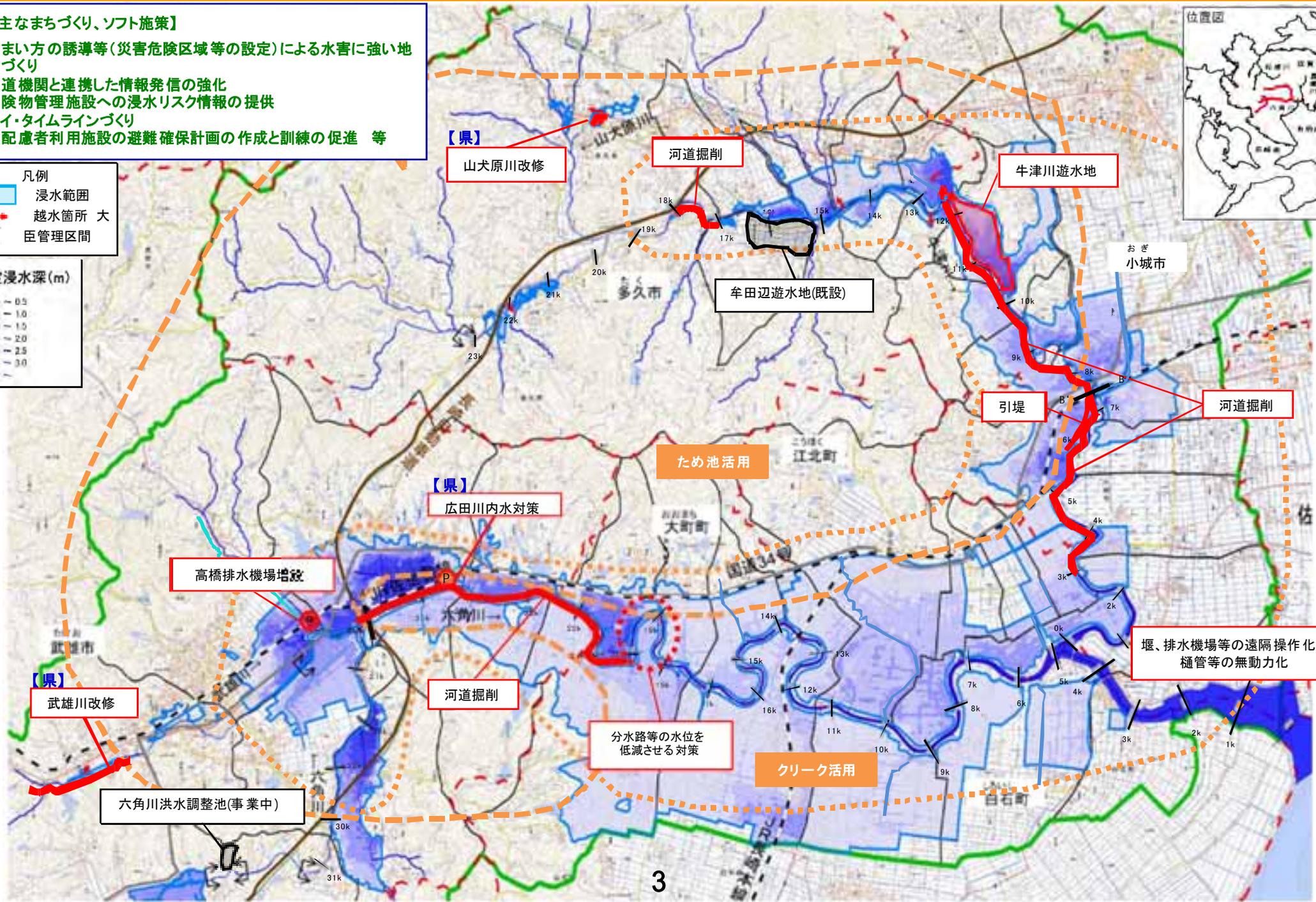
- ・住まい方の誘導等(災害危険区域等の設定)による水害に強い地域づくり
- ・報道機関と連携した情報発信の強化
- ・危険物管理施設への浸水リスク情報の提供
- ・マイ・タイムラインづくり
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成と訓練の促進 等

凡例

- 浸水範囲
- 越水箇所 大
- 臣管理区間

推定浸水深(m)

0.0 - 0.5
0.5 - 1.0
1.0 - 1.5
1.5 - 2.0
2.0 - 2.5
2.5 - 3.0
3.0



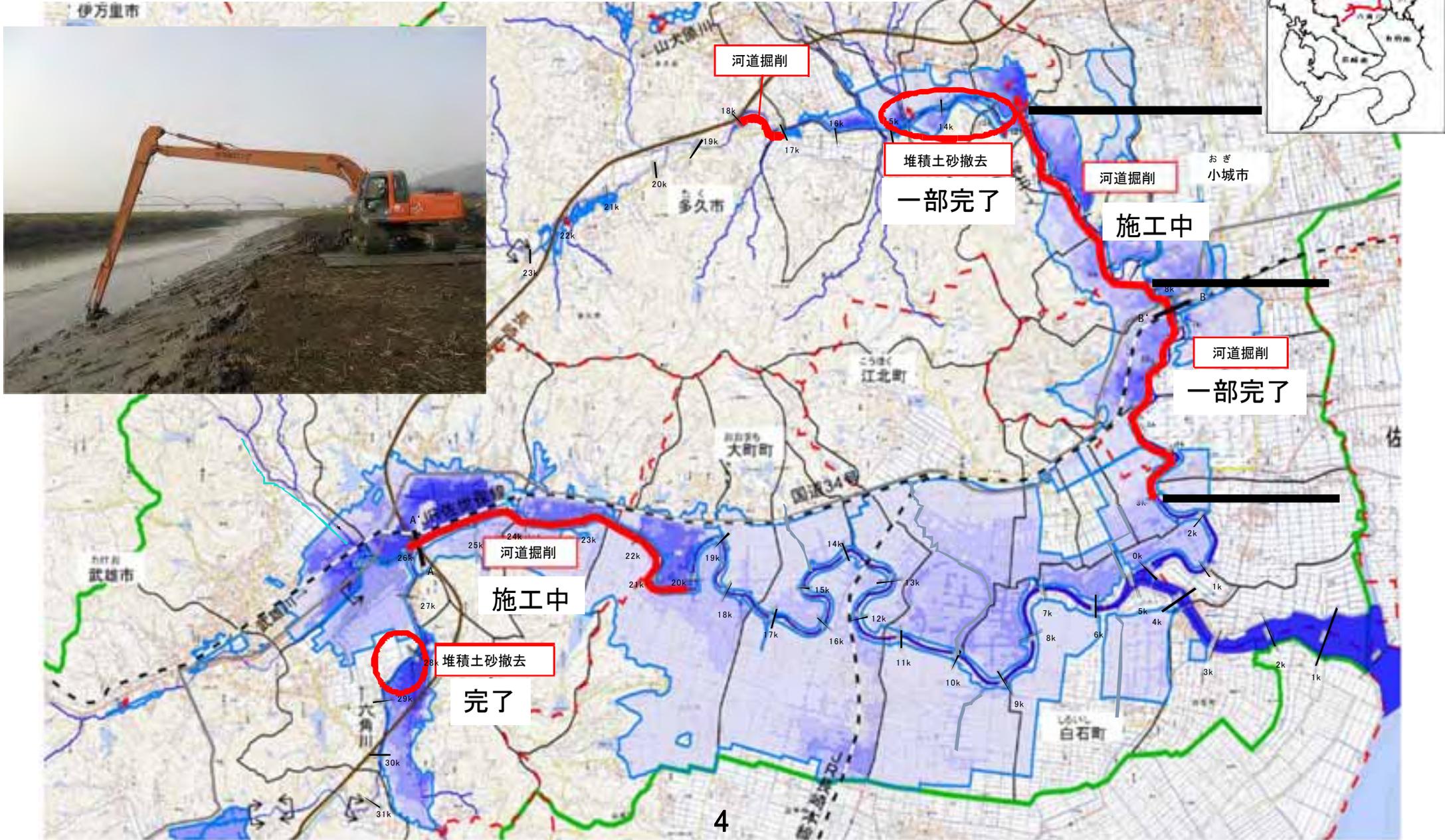
武雄河川事務所 事業実施状況（令和2年5月末現在）

① 武雄河川事務所

早期に効果を出すため、河道掘削・堆積土砂撤去を重点的に実施。

河道掘削：全体370千m³【64千m³完成（進捗率20%）、225千m³実施中（進捗率80%）】

堆積土砂撤去：部分的に堆積した土砂の撤去を実施。



六角川水系牛津川左岸 4/000 の状況

① 武雄河川事務所

施工前



R01/12/19



R02/1/31



R02/3/5

撮影日 R2.3.5



六角川水系牛津川右岸 5/600 の状況

① 武雄河川事務所

施工前

R01/12/26

R02/1/29

R02/3/25



六角川水系牛津川左岸 6/200 の状況

① 武雄河川事務所

施工前

R01/12/19



R02/1/31

R02/3/5

撮影日 R2.3.5



六角川水系牛津川左岸 6/800 の状況

① 武雄河川事務所

施工前



R01/12/19



R02/1/31



R02/3/5



撮影日 R2.3.5

六角川水系牛津川右岸 7/000 の状況

① 武雄河川事務所

施工前

R01/12/26



R02/1/29

R02/3/25



六角川水系六角川 仲橋下流 の状況

施工前



① 武雄河川事務所

(28k000)

R02/1/17



六角川水系六角川 東川水門下流 の状況

施工前



① 武雄河川事務所

(28k100)

R02/1/17



六角川水系六角川 印鑰橋下流 の状況

施工前



① 武雄河川事務所

(28k600)

R02/1/17



“逃げ遅れゼロ”へ向けた情報発信システム等の整備

住民の安全な避難行動を支援するために、リアルタイムの浸水状況を把握できるシステムの検討と内水解析及び洪水予測システムの開発を目指す。

浸水状況のイメージ



水位計より内水位を取得することで浸水状況を地図画面に表示

水位計等による浸水深の情報把握

リアルタイムに内水位を把握し、地図などの上に浸水状況図を示すことにより、適切な避難情報の発信を目指します。

具体的な対策内容等については、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

今後のスケジュール

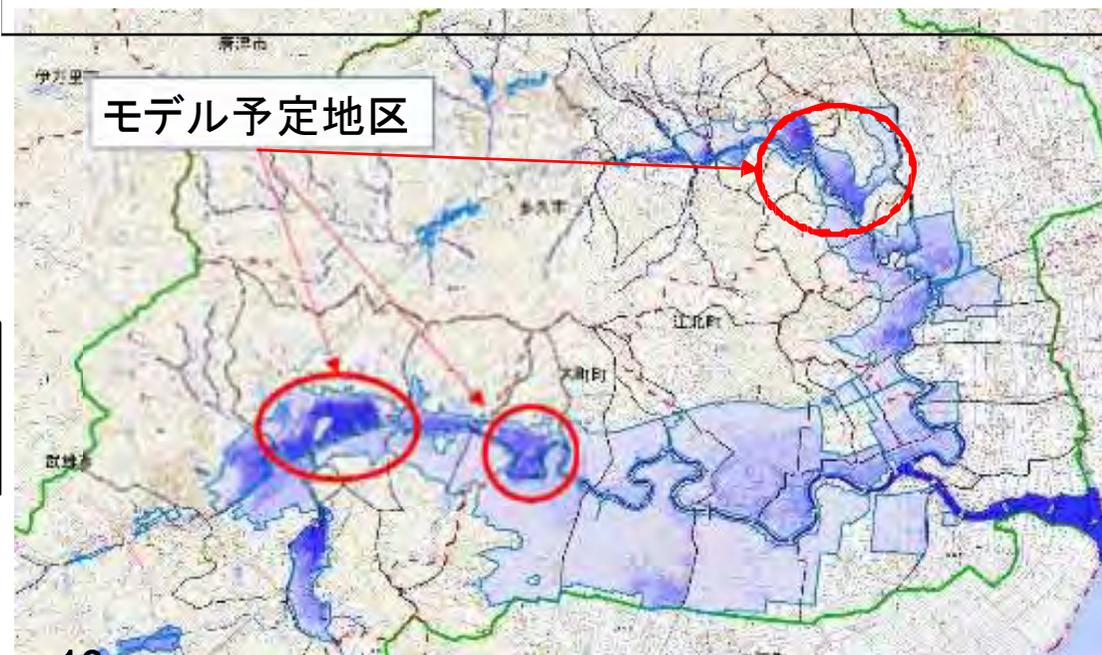
ステップ1

○リアルタイムに浸水状況を把握するシステムを構築
(モデル地区)

○内水解析の検討

ステップ2

○浸水を予測するシステムの開発



- 九州管内の直轄河川20水系において新たにYouTubeによる河川ライブ映像の配信を開始。
- 住民に対して各河川の状況についてリアリティーのある映像を伝達。



YouTubeによる河川ライブ映像配信

整備局名	対象河川	カメラ数	配信開始日
北海道開発局	13水系14河川 (天塩川水系天塩川他)	14	令和元年 8月16日
近畿地方整備局	9水系15河川 (由良川水系由良川他)	16	令和元年 6月17日
中国地方整備局	2水系4河川 (高梁川水系高梁川他)	4	令和元年 7月31日
四国地方整備局	1水系2河川 (肱川水系)	4	令和元年 10月31日
九州地方整備局	20水系74河川	310	令和2年 6月5日

310箇所のうち、六角川水系については16箇所配信

■ 現在配信中のYouTubeサイト

九州地方整備局



全国の各河川で「流域治水プロジェクト(仮称)」を公表

◆ 全国の一級水系を対象に、早急に実施すべき具体的な治水対策の全体像を、都道府県や市町村と連携して検討し、国民にわかりやすく提示。

【イメージ】 ○○川流域治水プロジェクト

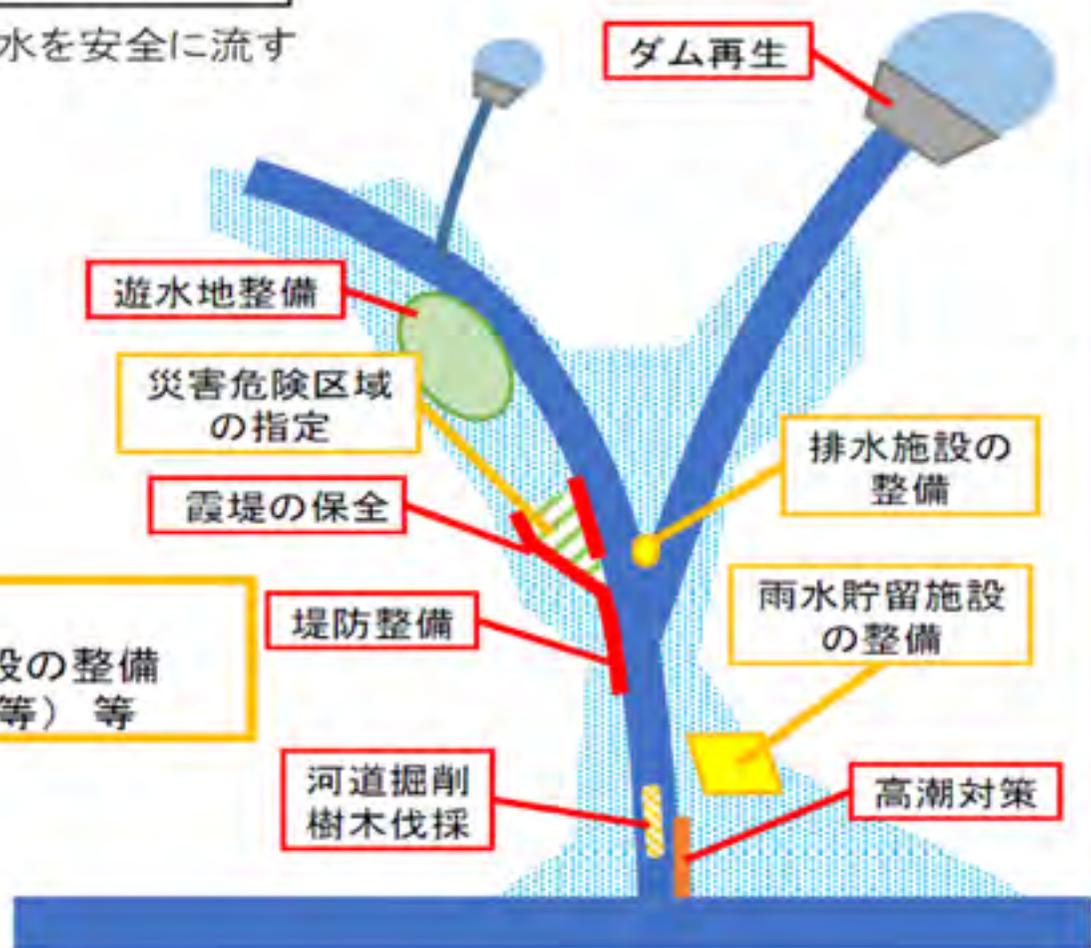
- ★ 戦後最大(昭和XX年)と同規模の洪水を安全に流す
- ★  …浸水範囲(昭和XX年洪水)

(対策メニューのイメージ)

- 河川対策
 - ・堤防整備、河道掘削
 - ・ダム再生、遊水地整備 等

- 流域対策(集水域と氾濫域)
 - ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
 - ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) 等

- ソフト対策
 - ・水位計・監視カメラの設置
 - ・マイ・タイムラインの作成 等



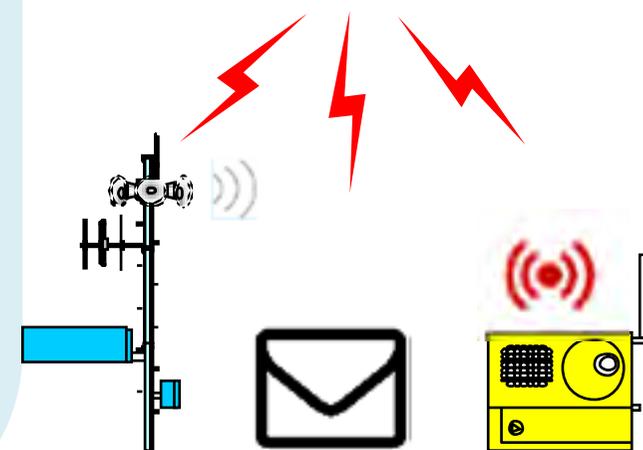
多久市

防災行政無線の 情報伝達の機能強化を実施

- 災害が頻繁に発生する中、緊急時における情報提供の機能強化を実施します
- 防災行政無線の操作卓の機能強化により、パソコンやスマートフォンなどを利用した情報発信を可能とし、情報伝達の迅速化を図ります
- 多久市防災緊急情報メールの周知と登録者数の増加を図ります
- 戸別受信機の台数を拡充し、スマートフォンや携帯電話を利用した情報収集が困難な家庭を対象に貸与します



防災無線システム



防災無線・防災メール・戸別受信機

武雄市

■ これからの避難のあり方

○ 自然災害×新型コロナの場合



疎 ソーシャルディスタンスの確保等の確保等



受付時に検温、健康チェック

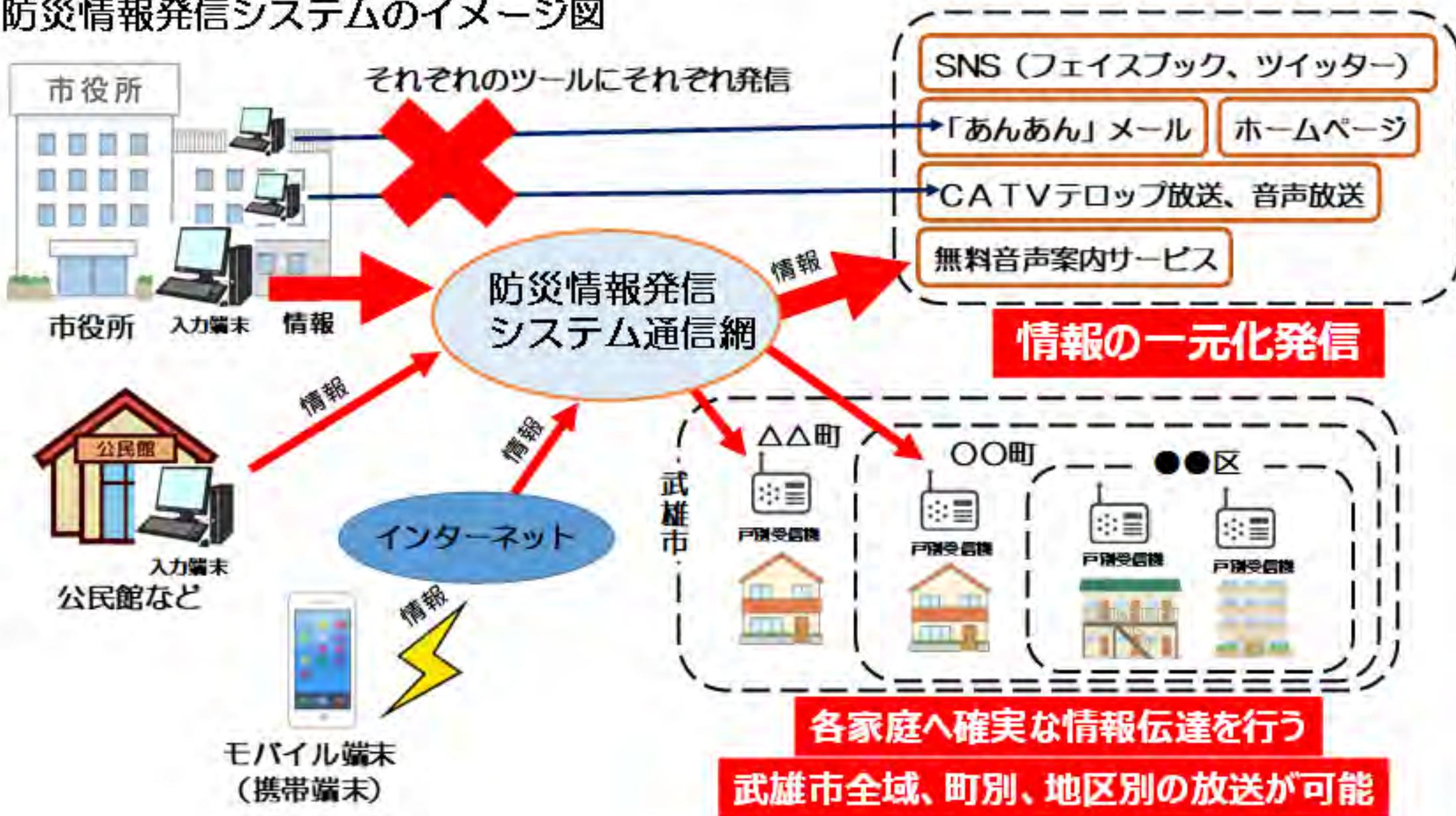
風邪症状がある人など

別 学校の空き教室の活用
保健師によるケア

※発熱者等専用避難所の開設は、県で設置の検討中

感染防止策の徹底

防災情報発信システムのイメージ図



小城市

水害リスク情報を共有できるハザードマップの改良と周知及び活用の推進

防災ハザードマップの作成

近年、大きな被害を伴う災害が頻発していることを踏まえ、ハザードマップの更新を行った。作成したハザードマップは、市内全戸へ配布するだけでなく、市ホームページでも公開することにより住民に広く周知をし、活用の推進を行う。

- 【全戸配布日】令和2年5月20（水）
- 【配布対象】市内全戸 16,072世帯



成果

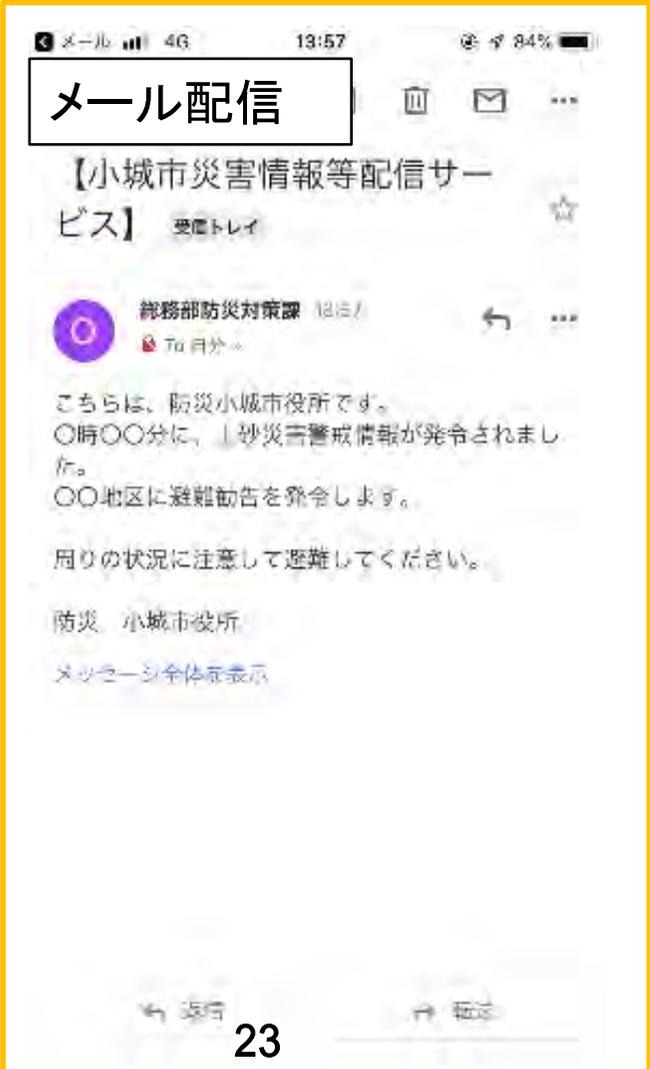
- ・住民に対し、水害リスク情報を共有し災害時における避難行動に役立つことが期待される。

今後の予定

- ・継続的にハザードマップ活用の推進行っていく。

小城市災害情報配信サービスを活用したプッシュ通知

小城市災害情報配信サービスは、メール・電話・ファックスにより、事前に登録した市民等へ災害情報等を発信するもの（職員参集の場合もこのメール機能を活用している）。従来は登録者のみへの発信であったが、令和2年度からは、自主防災組織連絡網（区長含む3名の携帯電話）へ災害情報等をプッシュ通知（電話）し、早期の避難行動へとつなげる。



災害情報配信サービス

令和2年5月末日現在
登録数

1470件

自主防災組織連絡網
登録数(プッシュ通知)
415件／543件 76%

新型コロナウイルス感染予防のための避難の呼びかけ

新型コロナウイルス感染症対策
災害時の避難(避難所)について

◆災害時の避難所は、避難者が「密集」「密接」するケースが多く、感染の拡大が懸念されます。

避難する場合は

- 感染リスク軽減のため、次のものを口ポケットに入れ、持ち歩く。
 - マスク (なければタオル等)
 - 体温計
 - 水、食料、毛布等
 - 筆記用具
 - その他各自必要なもの

◆避難所での感染を防ぐため、以下の点について市街の皆様のご協力をお願いします。

分散避難 → 安全な場所に住んでいる隣近所や友人、知人宅等への避難も検討ください。

在宅避難 → 川の近くや低い土地といった危険な場所に住んでいない方は、自宅に滞在する在宅避難(2層などに避難する場合は避難)もご検討ください。

車両避難 → 避難所施設に入らず、車の中で避難することも、他人との接触を避ける1つの方法です。

このチラシは「小城市ハザードマップ」と一緒に保管して下さい。

テラス裏側に、避難勧告等を発令する際の主だったエリアについて、行政関係者に設置しています。避難する際の目安としてご確認ください。

とるべき行動を確認しましょう

平時に確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

とるべき行動判定フロー

●あなたがとるべき避難行動は？必ず取り組まじょう

「ハザードマップ」で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけておきましょう。

家が危険な場所に色が付いている場合は？

- はい → 自分が住んでいないとしても、逃げとらなくてはならない場所のそばなどに住んでいる場合は、危険が及ぶ可能性がある場合は、避難所へ避難してください。
- いいえ → 安全な場所に住んでいても、1階床より上部が傾いたり、壊れたりしてしまう恐れがある場合は、2階以上ある場合は避難してください。2階以上ある場合は、避難所へ避難してください。

自分または家族が避難する時は避難所へ行く必要がありますか？

- はい → 安全な場所にいて、お世帯になることが出来る避難所や知り合いの人はいますか？
- いいえ → 避難所へ行く場合は、避難所へ行く前に、避難所へ行くことを確認してください。

安全な場所にいて、お世帯になることが出来る避難所や知り合いの人はいますか？

- はい → 避難所へ行く場合は、避難所へ行く前に、避難所へ行くことを確認してください。
- いいえ → 避難所へ行く場合は、避難所へ行く前に、避難所へ行くことを確認してください。

【全戸配布チラシによる周知】

新型コロナウイルス感染症予防対策として、3密を避けた避難方法として、「分散避難」「在宅避難」「車両避難」をよびかけるチラシを全戸配布した。

同時にハザードマップも配布しており、独自の避難計画「マイプラン」の策定検討の呼びかけも行った。



【避難所設営デモ】

指定避難所での、感染予防対策のためのデモを実施した。机上での想定よりも、収容人数が削減するなど課題が明らかとなった。

避難所の増設順を確認、運営スタッフの増員を行い、現在各施設毎の運営手順を、各担当毎に確認している。

水防災教育・出前講座等を活用した講習会の取組の拡大

自主防災リーダー研修の実施

実施日:令和元年9月28日(土)

参加者:新任区長109人、継続区長で平成30年度未受講29人、消防団幹部37人:計175名

内 容:・佐賀県地域防災力向上への取組及び自主防災組織の必要性について講演
・佐賀地方气象台と佐賀県防災士会による 大雨ワークショップ



研修会の様子



成果

参加者から動画は説得力があった等の意見があり、地域での活動に役立つ研修であった

今後の予定

次年度以降も継続的に実施していく

小城市内の公立・私立保育園・幼稚園職員の方へ防災についての研修会を実施

【目 的】災害が発生した場合は施設が被災し職員も被災者となるため、過去の災害の画像や動画等を見ながら災害をイメージして状況を予測し、日頃から保育士・教諭として災害に備え、事前・事後の対策はどうかなどを参加者で情報を共有する。

【参加者】市内の公立・私立保育園・幼稚園職員 計:22名

【内 容】職員参集に係る状況予測型訓練:救命講習(AED)



成果

参加者アンケートでは大変良かった、よかったが合わせて100%であった。災害はいつ起こるかわからないのでしっかり対応したいという意見が多くみられた

今後の予定

次年度以降も継続的に実施していく

大町町

既存排水機場の耐水化の推進

防水壁の設置【大町町】

- 浸水によるポンプ操作室への水の流入を防ぐため、防水壁及び防水扉の設置を行う。
令和2年6月末事業完了予定。

防災拠点の整備、必要な資機材等の確保

救命ボート8艇の購入・配備【大町町】

- 救命ボート一式（船外機他）を、町消防団の各部落格納庫に令和2年6月に配備する。
これにより消防団員による迅速な人命救助・避難誘導が行えるものとなる。

「まちづくり」による水害に強い地域への誘導（企業の取り組み）

油流失防止のため、工場の敷地全体を囲む外壁の工事、熱処理棟内の油水槽を囲う高さ90cmの鉄板の設置【佐賀鉄工所】



江北町

災害意識の向上と防災情報の理解・共有を推進するための取組【防災意識の啓発】

■ 防災意識の向上と迅速な避難に役立つ地区防災マップづくり

○令和元年度は4行政区で作成。自主防災組織、消防団、町で危険個所や共有したいポイントを確認し、地域で防災について話し合うことが目的。



■ 成果

○令和元年度に作成した地区防災マップは、対象地区へ全戸配布。

○現在、5行政区で作成済み。

■ 今後の予定

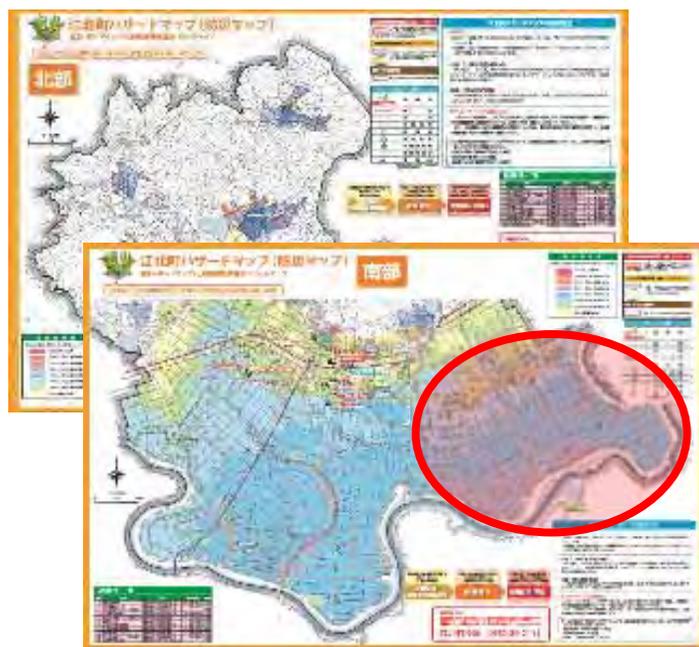
○令和2年度は5地区で地区防災マップを作成予定。

○35行政区独自の防災マップを作成していく。

冠水警戒地区が連携し内水をコントロールする取組【冠水対策】

内水管理における地区同士の連絡体制作りを目的に冠水対策協議会を立ち上げた。

【連携前】



【連携後】



■ 成果

○冠水を警戒する5地区が連携し、ゲートの調整をしたことで内水の水位をコントロールし、冠水被害の軽減ができた。

■ 今後の予定

○町内の内水を調整できるよう全地区で連携が取れる連絡網の作成を行う。

白石町

■支川の流出抑制・氾濫抑制の取組

【クレークを活用した雨水貯留容量の確保】

【大雨に備えた事前の対策】

○大雨警報が想定される場合

行政放送により、町内全域に事前排水を呼びかけ

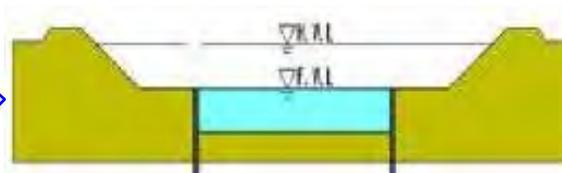
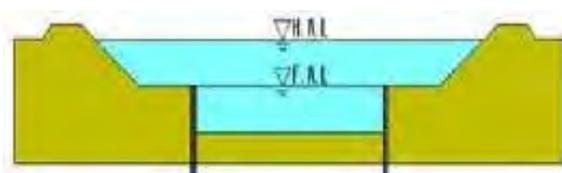
町内巡回により、個別に事前排水を要請(電話連絡など)

治水効果

湛水被害を軽減するため、大雨時の一時貯留断面を確保



事前排水



用排水路

用排水路

排水調整会議の開催

- 近年の天候(大雨)の傾向と対策
- 事前排水の重要性の説明
- 調整員、上下流地域間の連携強化など



ゲート操作による排水調整



効果 ○町内の各地域に呼びかけ、事前排水の徹底を図ることで湛水被害の防止、軽減が期待できる

○町民の防災意識の向上を図ることができる

■防災教育や防災知識の普及に関する取組

【まちなかに浸水リスクを表示するまるとまちごとハザードマップの推進】

【令和元年度】○町内の国県道沿いの案内板支柱に想定浸水深ステッカー貼付(7箇所)

【令和2年度～】○引き続き施工箇所を増設



効果 ○町内の各地域における浸水リスクの周知を図ることで災害時の早期避難を促すことができる

○町民の防災意識の向上を図ることができる

- 1 佐賀県 危機管理防災課

水害の記憶の伝承

令和元年佐賀豪雨災害パネル展

令和元年佐賀豪雨災害から半年が経過することを契機に、この災害を風化させず後世に語り継ぐため、県内2か所でパネル展を開催。

(2会場の来場者数 計961人)

唐津会場

唐津市大手口センタービル内唐津市民交流プラザ3F ロビー
期間：令和2年2月24日(月・振休)～3月1日(日)

鳥栖会場

フレスポ鳥栖ウェルカムコート
期間：令和2年3月14日(土)～3月20日(金・祝)



(鳥栖会場)



(唐津会場)



(唐津会場)

希望があれば、
市町へのパネル
貸出し可能。

水害の記憶の伝承

『伝えよう 佐賀の災害歴史遺産』

県内には、過去の災害対策等を現代に伝える「災害歴史遺産」が建造物や石碑、行事等様々な形で残っているが、その存在が知れ渡っているとは言えない状況にある。

県では、災害歴史遺産の由来等を紐解き、そこから得られた教訓を伝えていくことにより、地域の防災力向上に資するとともに、今後も災害歴史遺産を守っていくという意識の高揚を図るため、平成30年度に『伝えよう 佐賀の災害歴史遺産』作成し、県内の小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校へ配布を行った。

(約9,200部(小学5年生対象))

昨年発生した令和元年佐賀豪雨災害についても、今後後世へ語り継いでいくため、『伝えよう 佐賀の災害歴史遺産』に新たに追加し、今年度県内の小学校等へ配付予定。



その他

住民への周知

防災アクション推進事業

県民に普段から防災行動（防災アクション）を促すための啓発映像を作成し、SNS等を用いて主に若年層に向けた啓発を行う。（ 災害に対する意識改革と日ごろからの備えを充実 ）

1分程度のアニメーション動画（近日公開予定）



- 2 佐賀県 河川砂防課

令和2年6月28日
河川砂防課 海岸・防砂課
担当 菅 川崎、片岡
内線 2882 直通 0952-25-7162
E-mail: kasensahonwotef@saga.lg.jp

すい坊くん（佐賀県河川情報システム）が新しくなりました

平成30年7月業務や令和元年6月佐賀県庁など、近年、毎年のように県内を
はつぱら全国各地で大規模な災害が頻発しています。

そこで、30日水位の他に、新たに河川カヌエ等地図情報等、大幅に機能拡張
をし、市民の方々の安全を確保に役立つ河川情報システムとして「すい坊くん」
のバージョンアップの公開を開始します。



1. 運用開始日

令和2年6月1日（月曜日）

2. 公開情報（URL）

スマートフォン

https://kasen.pref.saga.lg.jp/river_sp/

スマートフォン

<http://kasen.pref.saga.lg.jp/fp/>

PC用

<http://kasen.pref.saga.lg.jp/gispub/>

3. 公開情報（QRコード）



すい坊くん（スマートフォン）

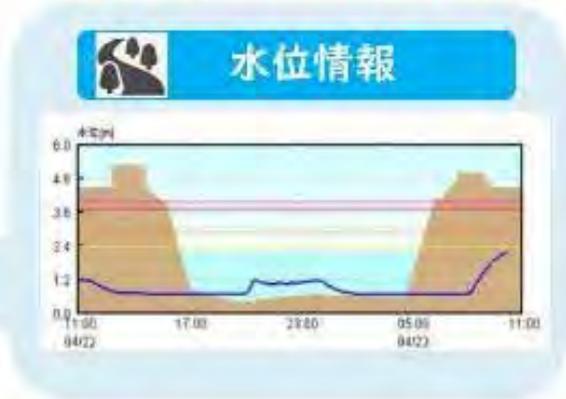


すい坊くん（スマートフォン）

スマホ版河川情報 “すい坊くん” 6月1日リニューアル!

～ 身近な河川等の情報をいつでもどこでも閲覧できます ～

これまでの“すい坊くん”



6月1日から

大幅に機能UP

地図や「メニュー」から河川等のリアルな状況を確認

NEW 地図情報



NEW カメラ情報



NEW 他にこんな情報も!



スマホ用



ガラケー用



PCでも活用できます

すい坊くん



いざという時に命を守る情報。梅雨入り前に“すい坊くん”を登録!